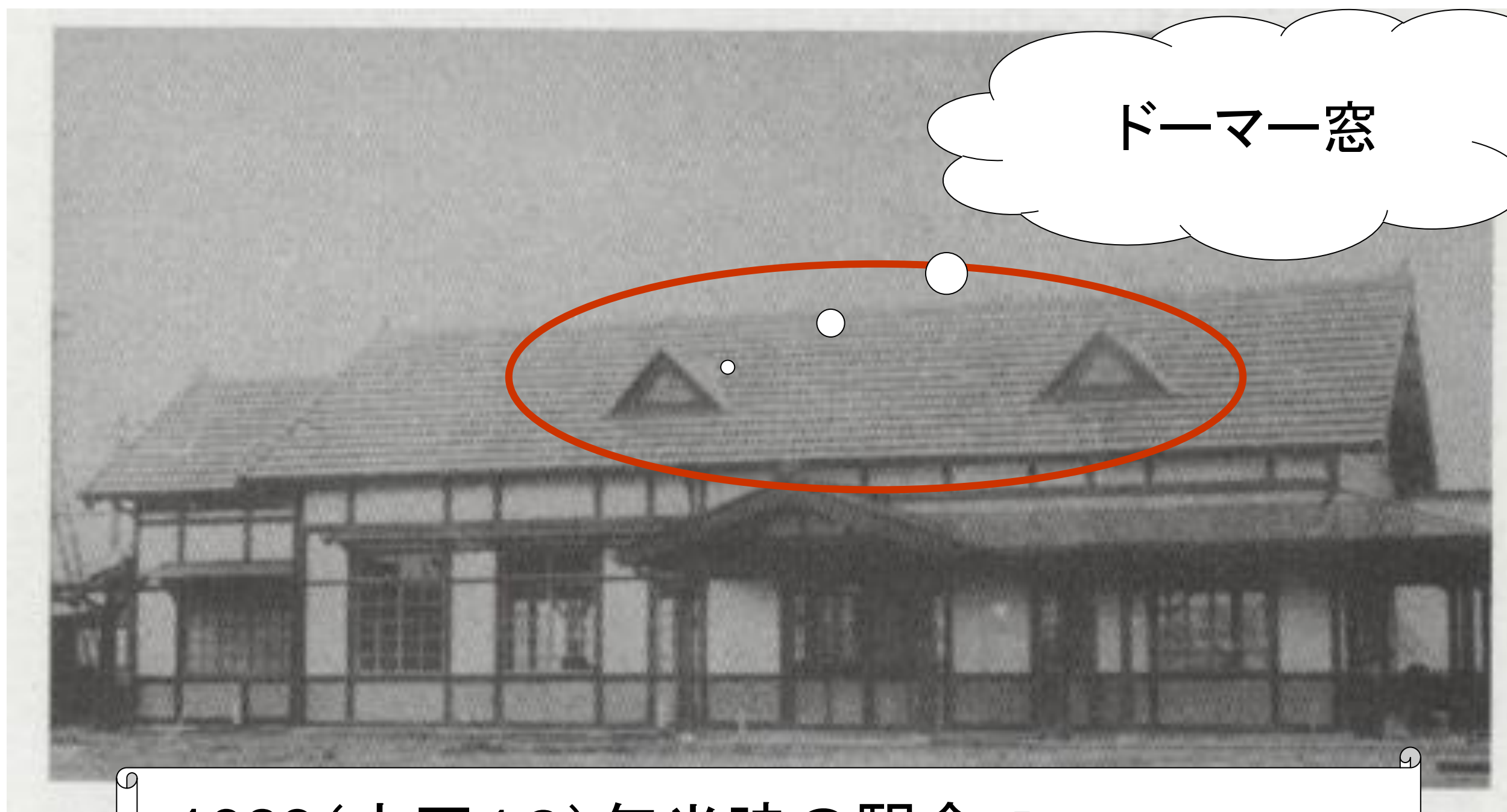




国鉄烏山駅舎と森田トンネル ～近代化を支えた鉄道施設～

国鉄烏山駅舎

- ・明治14年にわが国で初めての私鉄として、日本鉄道が開通した。
- ・日本鉄道の宝積寺駅から分岐し烏山駅までの烏山線が開通したのが大正12年で、これに伴って開設されたのが烏山駅舎である。この烏山線は宝積寺から烏山駅まで全長20.4kmである。
- ・構造は瓦葺き切妻屋根木造平屋建てで当時の駅舎には2つのドーマー窓が存在したが、その後の改修でドーマー窓は撤去された。しかし、全体の輪郭は当時を彷彿とさせている。
- ・烏山駅舎は、新しい交通体系の革新をととして地域産業の興隆に果たした役割だけに止まらず、文化移入の窓口として本市の近代化を支えた貴重な歴史遺産である。



ドーマー窓

1923(大正12)年当時の駅舎(「烏山町史」より)



烏山駅前に設置された近代化遺産解説板

森田トンネル

- ・森田トンネルは、烏山線の滝駅と小埜(こばな)駅間、宝積寺駅から16.58km(起点)、16.94km(終点)に位置する総延長356.31mのトンネルである。
- ・構造型式は、コンクリート造、ファサードは馬蹄形(ばていけい)甲型という断面で、全体的に狭い断面形状である。最大幅は4.5m、レール面上の高さ4.6m、覆工厚0.48mで、トンネル内の勾配は25パーミル(‰)である。この25‰とは、水平距離1000mに対して高さが25mの勾配をいう。
- ・「烏山線建設工事概要」によると、使用セメント量は10297樽(バレル)、約1230klであることが記されている。
- ・烏山線には鉄道唱歌が残されており、その中で工事の過酷さ・難工事であったことがうかがえる。

～「烏寶線」鉄道唱歌～ 及川誠二 作歌

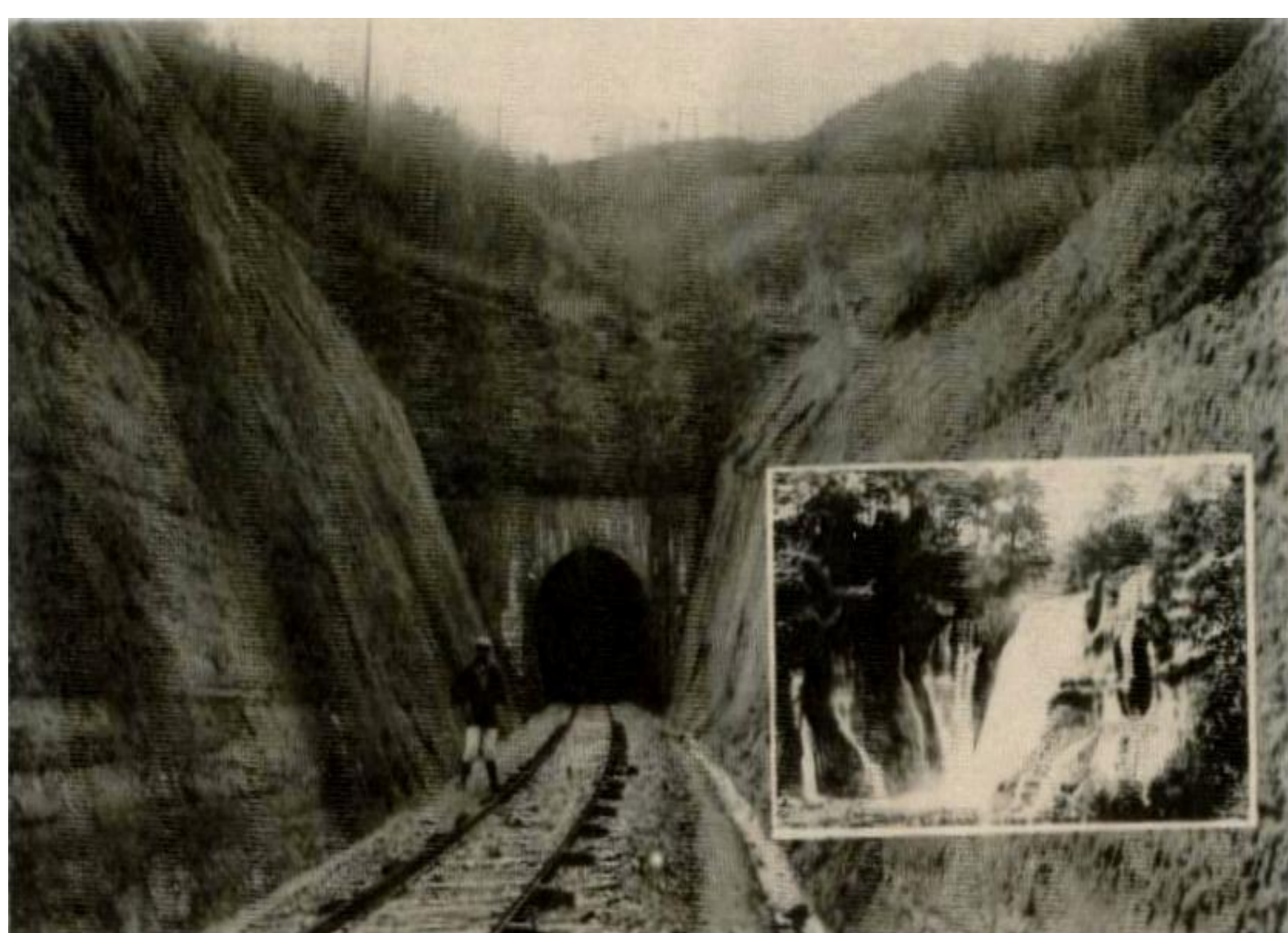
....

2、窓にもたれて朝風を 愛づる折しも一聲の 汽笛と共に吾が汽車は 烏山をば出でにけり

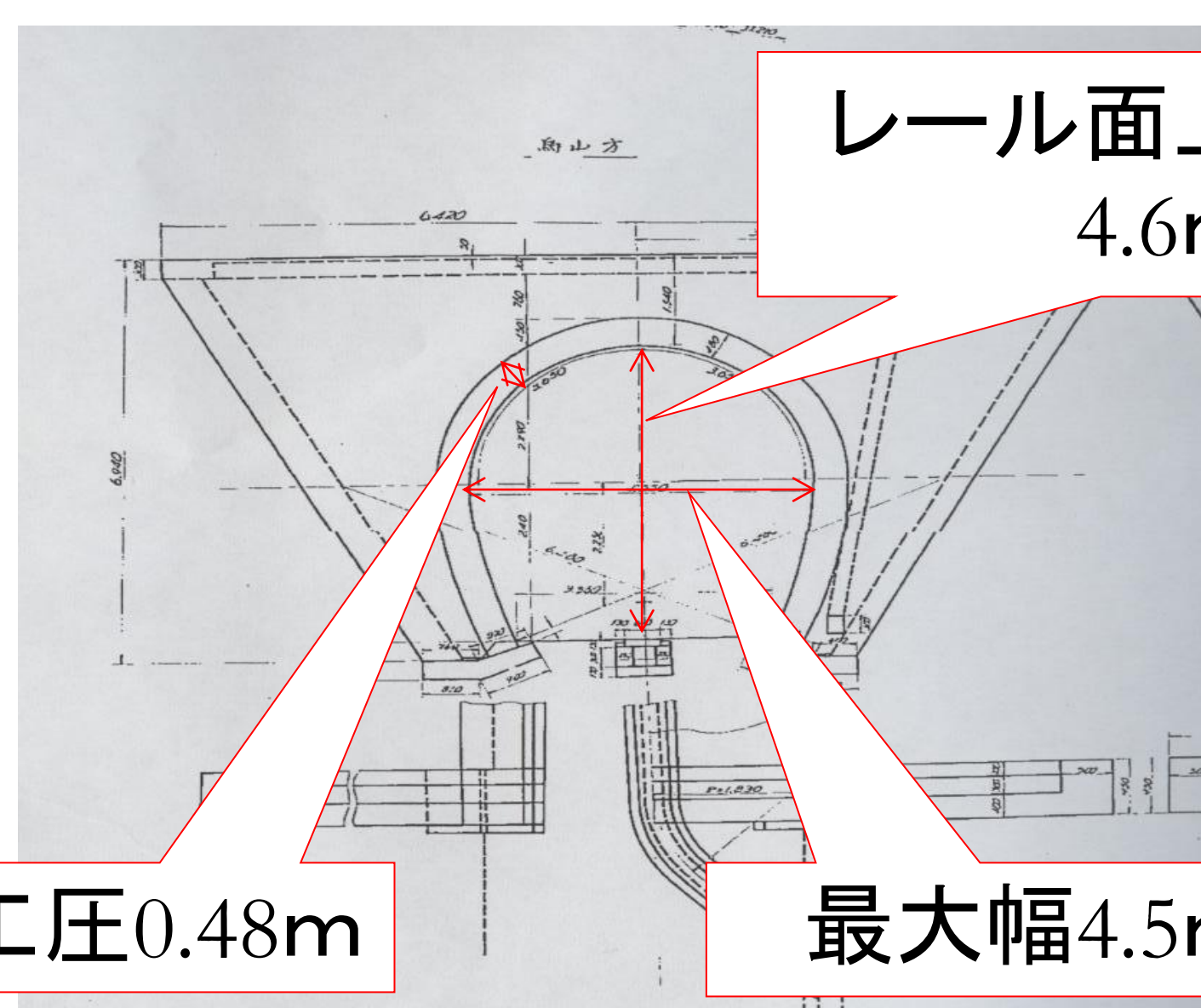
....

7、汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りにけり 此處難工の一ところ 延長實に三町餘

....



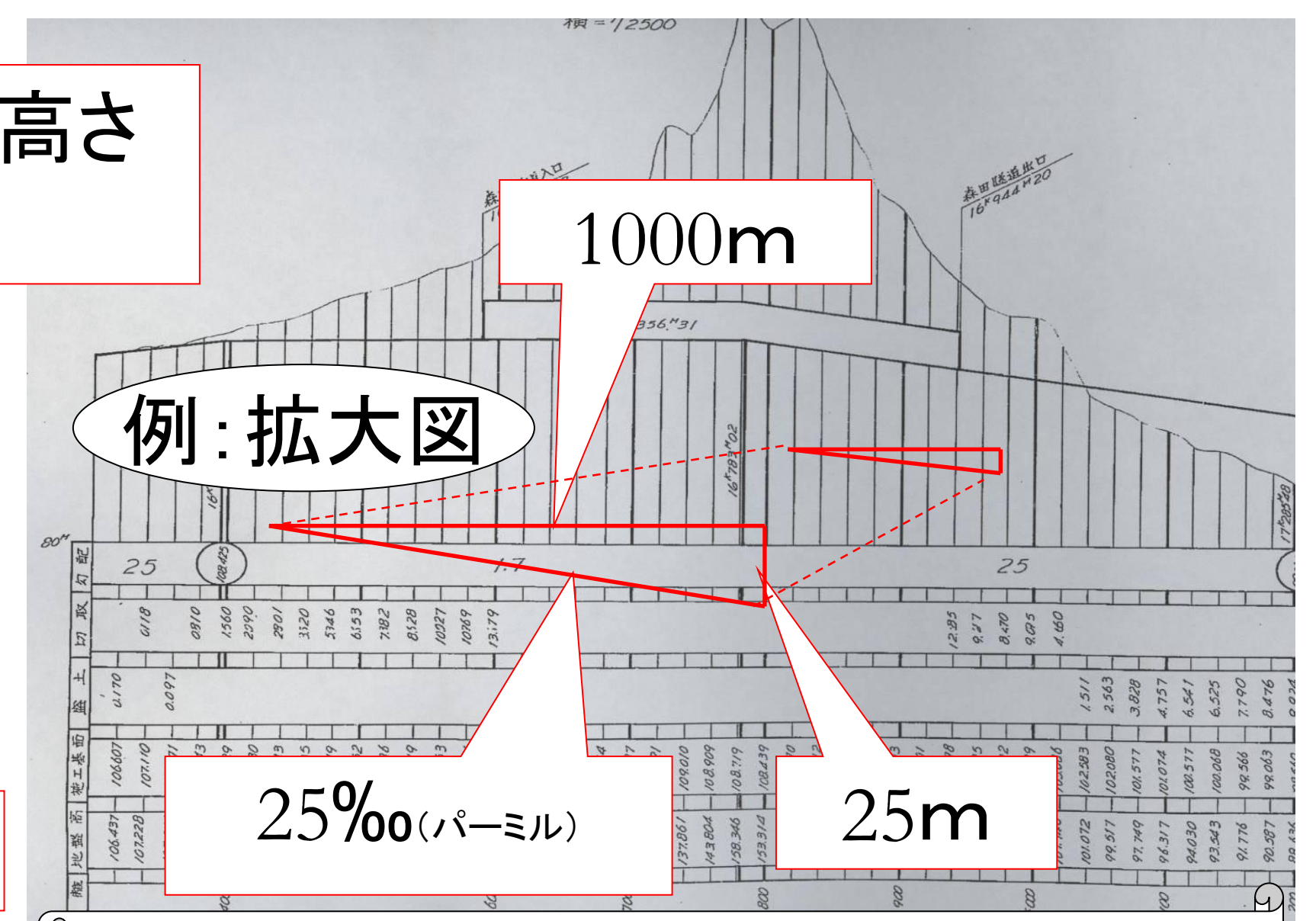
開業当時の森田トンネル



覆工厚0.48m

最大幅4.5m

横断面図(「土木構造物保守台帳」より)



例:拡大図

25‰(パーミル)

25m

縦断面図(「土木構造物保守台帳」より)